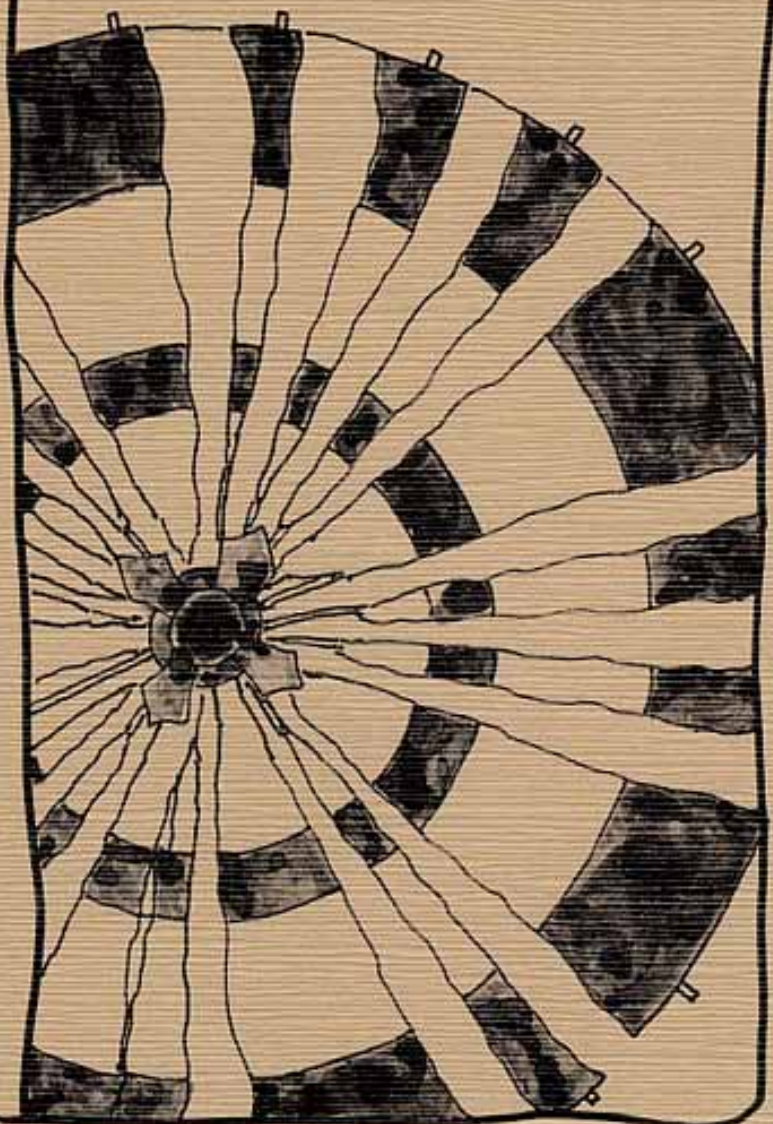


やぶれ傘



一一七号

二〇二〇年十二月

浮寝鳥波の高さの見えてをり 根橋宏次

金網のフェンスは続く雁わたし 大島英昭

日向からきて日向へと冬の蠅 きくちきみえ

冬もしアルマニヤックの瓶が空 藤井美晴

茶の花のほろりとこぼれ落ちにけり 廣瀬雅男

明日着る喪服を吊りて海鼠喰ふ 青谷小枝

風炉名残済んで炉の灰検むる 瀬島酒望

拝殿の紙垂に風来る神の留守 渡邊孝彦

秋晴れやけふの眼鏡はよく見える 丑久保 勲

黄葉のすすむ庭もうすぐ雨か 安藤久美子

初しぐれ鴉は変な鳴き声で 小山よる

日の暮をふらついてゐる秋の蝶 白石正躬

銀杏黄葉くぐりて小さき美術館 秋山信行

猪鬣を積んだ軽トラ着きにけり 天野美登里

青みかんしきりに髪を撫でる癖 有賀昌子

抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選

ウサギどこ芋名月に目を凝らす 松村光典

芋の露こぼさぬ程の風渡る 武藤節子

富士と月残して釣瓶落しかな 村田 武

手で回す鉛筆削り冬隣り 山本久枝

枯葉降る庭の箒目その上に 湯本正友

手に包むホットワインを飲む夜寒 吉田幸恵

八十路かな今年の紅葉確と見て 岩藤礼子

能登の塩振つて仕上げるむかご飯 奥田温子

赤まんまいつもの夫と会ふところ 神山市実

梨を剥く畑仕事のお茶請けに 木村瑞枝

大根の葉のゆさゆさとエコ袋 倉澤節子

ラジオ聴きながらの長湯秋深む 小巻若菜

小鳥来る仏足石に雨たまり 中島和子

竹箒とめてしばしの涼新た 貫井照子

コスモスの丘より眺め太平洋 萩原久代

冬がすみ

大崎紀夫

秋の蝶砂場の端に子が座り
いわし雲川原にグライダー並び
灯をともしすすぐ下秋のごきかぶり
揚げ舟のあたりよくくる秋の蝶
大豆干す庭に夕風立ちにけり

藍刈りを終へしが土手をのぼりくる
稲架解かれ竹や丸太が道端に
雲白くフェンスのへくそかづら枯れ
鳩小屋のうへに十一月の空
冬がすみ山羊鳴くこゑがきこえる
ヒメムカシヨモギは吹かれつつ枯れて
墓囲ひゐるは藁とかシートとか

浮寝鳥

根橋宏次

ちゆんと鳴きこつんと雀蛤に
 搭乗機までのバスから秋の海
 摘み呉るる紫苑の丈をそのままに
 舟屋から舳先の覗く櫛紅葉
 花八つ手すかすかと押す空気入れ
 すれ違ふ十一月の鯉と鯉
 柵に落葉のたまる一葉忌
 洗ひ場に鯉ゐる暮し冬うらら
 舟の尻冬青草に着けらるる
 浮寝鳥波の高さの見えてをり

雁わたし

大島英昭

秋の雨車上の犬に吠えらるる
 左折していよいよ稲のかをりけり
 野紺菊緩きのぼりとなりにけり
 残る虫高速道路くぐるとき
 金網のフェンスは続く雁わたし
 掃きだめに蜜柑の皮を投げてゐる
 補聴器に砂利を踏む音小六月
 川岸を行けば鴨翔ち土鳩翔ち
 ジェット機の音くる冬の蜩蝶
 ワイパーに落葉をためて駐車中

冬の蠅

きくちきみえ

物干しのどこか近くにキンモクセイ
栗の実の毬に収まる形して
幼子の指先にある赤まんま
白^{おしろ}粉^ろ花の種を取りては投げてある
秋の蝶傘を干したるあたりより
飲み残すボジョレヌーボー船のポー
昼からの日に当ててゐるさつまいも
右手に束子左手に泥大根
植ゑ込みを二三步離れ石路の花
日向からきて日向へと冬の蠅

後の月

藤井美晴

鼻歌の近づいてくる後の月
十字路の右から秋の紋黄蝶
戦鬪機過る木犀零れつつ
小春日の縁側に来る喪のはがき
冬ともしアルマニヤツクの瓶が空
風船が枝にゆらゆら冬うらら
鉄棒と雲梯わきに冬椿
童謡碑析の実も葉も落ち尽くし
石路の花七八輪へ波のこゑ
起きぬけの肩口寒し三島の忌

茶の花

廣瀬雅男

竹林を風ひやひやと抜けにけり
ベランダに出て十月の風の中
百舌鳴くや日暮れの空にちぎれ雲
街道の右に左に柿実る
人住まぬ家の満天星紅葉して
立冬の日差しの届く机かな
茶の花のほろりとこぼれ落ちにけり
庭石に座して見上ぐる冬紅葉
しぐるるや畑に真つ赤な耕運機
冬桜花の向こうに昼の月

海鼠

青谷小枝

トースターがチンと鳴つたし鵝鳴くし
空き家かも知れぬ洋館蔦紅葉
赤に黄におしろい花の咲き空き家
だだちや豆三本指で塩振つて
鶏頭を突つ込んである備前壺
草相撲端に寄せある児のズック
木の葉散る酒のつまみのビターチョコ
昨日から煮ているシチュー初霰
碁会所の暖房少しききすぎて
明日着る喪服を吊りて海鼠喰ふ

貴船菊

瀬島洒望

カンナ咲く塗装新たな理髪店
逆さまとおぼしき絵画美術展
秋夕焼テトラポッドに鳶降りて
レリーフは小泉八雲曼殊沙華
バツタ飛ぶ放置自転車返却所
定食のメニューが画架に貴船菊
鎖樋途中で途切れ新松子
バス降りて黄葉かつ散る農学部
風炉名残済んで炉の灰あらた検むる
老酒の空き壺に降る枯葉かな

神の留守

渡邊孝彦

父母の笑顔の遺影今日の月
魯田に鴉来てゐる金風忌
ごつそりと取り除かれて蔦かづら
柿の木に当たりし夕日鉄塔へ
暮の秋畑の畝の深々と
鳩二羽が駅舎掠むる冬立つ日
篁の奥に木洩れ日神渡し
石落咲けりでこぼこ多き権太坂
拝殿の紙垂に風来る神の留守
街道に沿ふ川土手の草枯れて

梨売り

丑久保勲

遠ざかる車の尾灯蚯蚓鳴く
梨売りの来てゐる駅のロータリー
秋晴れやけふの眼鏡はよく見える
舞茸の天ぷらを乗せ駅の蕎麦
秋深し久しぶりなる靴磨き
秋の昼女性がひとり座す画廊
カレー屋の壁一面の蔦紅葉
点線に沿つて紙切る秋の夜
末社にも一礼をする神の留守
やや寒のお昼にうどん茹でてゐる

蔦紅葉

安藤久美子

窓越しにバレエ教室蔦紅葉
紅葉を離れて午後のティータイム
いつせいに飛び立つ雀庭は秋
味酩買ふ新酒の試飲ほどほどに
黄葉のすすむ庭もうすぐ雨か
檸檬二個窓よりの陽に息づいて
茶の花垣隔てて畑広々と
冬麗の聖橋より総武線
冬暖か雲梯を人進みゆく
枝枝に雨冬草に雨の音

初しぐれ

小山よる

ペン 三本机に出して秋の雨
幼な子の手の触れて行く夜寒かな
テーブルにタオルの置かれ火恋し
薄紅葉散歩の犬の立ち止まり
長き夜がむしやらにするペン回し
冬の夜のカフェざわめけり小さき地震
冬の昼部屋着のまま外に立ち
メロンパン手に提げて立つ冬の角
初しぐれ鴉は変な鳴き声で
弁当の蓋ペコと鳴る冬の夜

秋の蝶

白石正躬

白萩が風にもまれてをりにけり
離れ屋の時計鳴りゐる長き夜
赤まんま飛行機雲が伸びて行く
日の暮をふらついてゐる秋の蝶
土手行けばところどころに残る虫
草の葉の葉の先ごとの朝の露
やや寒の土手歩きけりあかね雲
長大根二つに割つてもらひけり
冬ひばり客二人乗せ渡し発つ
岸によれば鴨が飛び込む五羽六羽

銀杏黄葉

秋山信行

銀杏黄葉くぐりて小さき美術館
歩の幅に合はぬ石段草もみぢ
月明や数へるほどに星の数
コスモスの風に吹かるることしきり
耳とほくなりし二人や秋の暮
秋耕や小枝に上着かけしまま
稜線のくつきりとして秋没日
柿たわわ洗濯物の風に揺れ
窓越しに銀杏散りゆく喫茶店
白砂に箒目のこる秋の雨

猪罾

天野美登里

花オクラ小夙の廓は風に開く
鍛冶打ちの火床に釣瓶落しかな
城址の社に暮るる金木犀
猪罾を積んだ軽トラ着きにけり
庭石に臍のごと穴菊の宿
山小屋にカレーのほひ芒散る
居酒屋の昼のオープン花八ツ手
大根をつつむ新聞ななめ読み
短日の波打ち際の暮れのこる
山眠り石ころに乗る河原鳩

青みかん

有賀昌子

青みかんしきりに髪を撫でる癖
雁来紅ポップコーンの爆ぜる音
毬栗を蹴とぼしながら行きにけり
櫨紅葉木の橋ひとつ渡りくる
秋の夜さそり座の尾の見つかからず
秋うらら磨く新車に雲映り
葡萄狩り顔に木漏れ日ゆらゆらと
離れ部屋に古き鏡台へちま水
神無月ワイングラスに満たす赤
結願の錫杖きよめ昼の虫

秋茄子

松村光典

上を向いて今日も歩かう秋なれば
朝顔がまだ咲いてゐる午後の四時
あげは発つ抜け殻のうへ軽々と
団栗がコロコロ風と遊ぶやう
秋の並木老木古木伐られゆく
秋空にニョッキリ新調焼却塔
秋茄子は雨に打たれて艶々に
ウサギどこ芋名月に目を凝らす
風ありて落ち葉山なすきのふけふ
吹き溜まる枯れ葉のあれば踏みにゆく

◇1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	6日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	8日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	1日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	大宮公園の梅園	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは1月29日(金)です。

2月21日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所 JR大宮駅・中央改札前。

吟行地は大宮公園の第2公園梅園。

句会場はさいたま市民会館505号室。

◎連絡先

秋山信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856